



平素は本校教育活動にご理解・ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、今年度後半の学校評価にご協力いただきありがとうございました。同時期、児童には日頃の学習や学校生活の様子について、教職員には日常の授業や家庭との連携、学校運営への参画等について、実現度をはかる自己評価を実施いたしました。

私たちは保護者の皆様からいただきました学校評価と児童の自己評価を通して、自分たちの日頃の取組を見直すきっかけにするとともに、保護者・地域の皆様と一緒に、よりよい教育のあり方を探っていきたいと考えています。今回は、12月の結果をお伝えするとともに、結果から見えてくる課題について分析し、今後の取組に生かしていきたいと思います。

学校評価特別号では、前回（令和6年度前半）の結果と比較し変化が見られた項目について分析を行い、グラフと考察を記載いたしました。全ての項目のグラフは、ホームページに掲載しております。合わせてご覧ください。

## < R6 前半の結果と比べて >

今回のアンケート結果は、前半と比較すると、児童ではほとんど同様の結果となりました。ほとんどの項目で肯定的回答が9割を超えており、「よく出来ている」の回答が半数を超えるものが多くありました。年間を通して、自分のめあてを意識して学習や生活に取り組めた子どもたちが多くなったようです。保護者・教職員においても大きく変化が見られた項目はありませんでした。保護者では、「確かな学力」では否定的回答が減少した項目が複数ありました。子どもの姿を通し、学校の取組をよりご理解いただけたためと考えます。「健やかな体」「紫竹校の取組」において否定的回答がやや増加した項目がありました。教職員では、「健やかな体」ではやや「よく出来ている」が減少しましたが、他のテーマでは増加した項目がありました。今年度取り組んできた教育活動の「チャレンジとアップデート」や後半に実施したふれあい朝会・参観について成果を感じることができたためと考えます。しかし、体力づくり・望ましい生活習慣を身に付けることについては、保護者・教職員共に課題を感じている割合がやや多くみられました。

「確かな学力」「豊かな心」「すこやかな体」「紫竹校の取組」のテーマごとに、今年度の成果や課題が表れている項目を中心に分析結果をお知らせします。

## < R6 後半の紫竹小学校の傾向 >

### 確かな学力

■ よく出来ている ■ 大体出来ている ■ あまり出来ていない ■ 出来ていない

#### ○「進んで自学自習に取り組んでいる」

##### 児童



教職員においては、前半の結果とほぼ変わりがありませんでしたが、児童では約4%、保護者では約8%否定的回答が増えました。教職員は継続して指導はしており、自学自習の習慣が身に付けられた子どもたちも多いようですが、意欲が低下した子どももいるようです。子どもがどのように取り組んでいるのか、保護者へ十分に伝わっていないようです。今後も指導や家庭との連携が必要と考えます。

#### ○「GIGA 端末を活用して学校や家庭で学習を進めている」

##### GIGA端末を活用して学校や家庭で学習を進めている

54.7%

34.8%

8.3% 0.9%

##### 子どもは家庭学習においてGIGA端末を活用している

14.1%

36.2%

34.9%

14.8%

##### 子どもの主体性を育むICT機器の効果的な活用に取り組んでいる

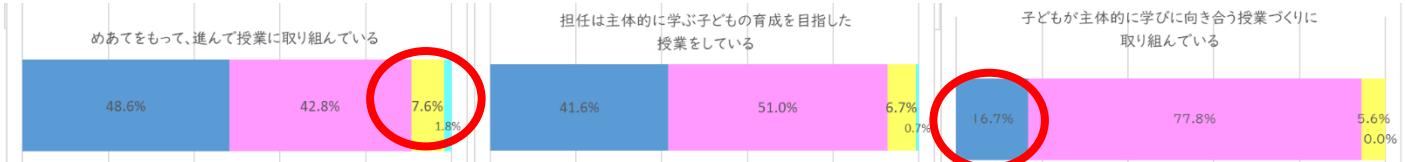
22.2%

66.7%

11.1% 0.6%

前回の結果と比べると、児童では「よく出来ている」が約4%増加し、保護者では否定的回答が約15%減少しました。教職員では、「よく出来ている」が約10%増加しました。後半は、低学年でもGIGA端末の持ち帰りやロイロノートの活用等が進みました。また、今年度はICT機器活用を教職員研修の柱としていることから、後半は成果を感じることができたようです。しかし、まだ約1割の児童や教職員に否定的回答が見られます。今後も継続して、教職員研修を充実させ、GIGA端末使用についてのルールやマナーを指導しながら進めていきたいと思います。

### ○「めあてをもって、進んで授業に取り組んでいる」



児童・保護者の回答は前回とほとんど変わりがありませんでした。教職員においては、「よく出来ている」が約17%増加しました。今年度は「主体的に学ぶ子どもの育成」を目指し、全担任が授業を公開しての教職員研修を実施しました。子どもが学習に取り組む姿から、授業改善に取り組んだ成果を感じることができたようです。しかし、今回も約1割の児童に否定的回答が見られます。児童に寄り添った指導や支援ができるよう、一人一人が学習に取り組む様子を見取るようにしていきたいと思います。

## 豊かな心

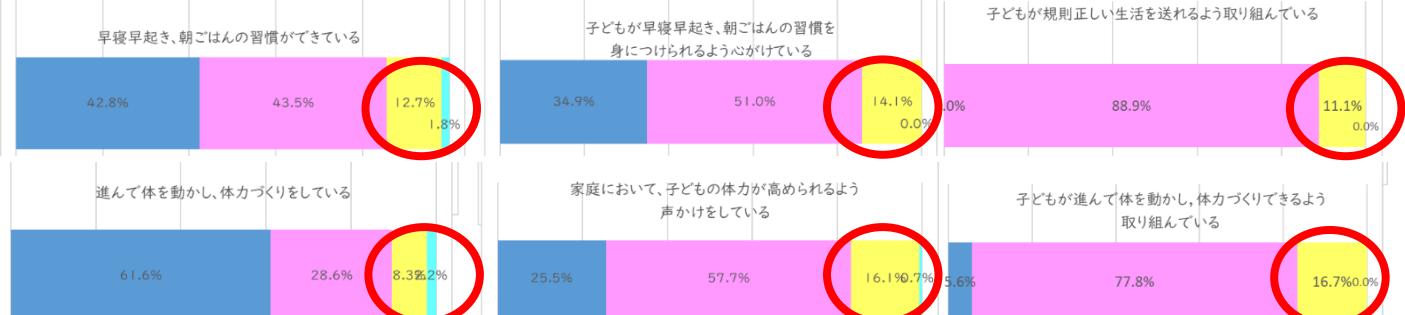
### ○「自分で考えて判断し、正しく行動する」



「豊かな心」については、児童・保護者・教職員いずれも肯定的回答がほとんどでした。しかし、前半と同様に「自分で考えて判断し、正しく行動する」について、「よく出来ている」と回答した児童の割合が他の項目に比べて少なくなっていました。否定的回答も約1割となっていました。今年度後半には、12月のふれあい朝会では「自分のよいところ」について、1月のふれあい参観では「情報モラル」について考える機会をもちました。前半の評価号でも述べましたが、自らが行動の主体となり、正しい行動がとれる子どもに育つよう、取組を継続していきたいと思います。

## 健やかな体

### ○「早寝早起き、朝ごはんの習慣ができている」「進んで体を動かし、体力づくりをしている」



健やかな体については、前半と同様に1割を超える児童が早寝早起き・運動等の望ましい習慣を意識した生活を送っていないようです。冬休み明けの「すこやか週間」の結果でも、学年が上がるごとに就寝時刻が遅くなっています。低学年でも午後10時を過ぎる児童が少なくありません。高学年では12時を過ぎることもある児童がいました。学年に応じた睡眠時間の確保を意識していただきたいと思います。朝ごはんを食べられない児童はほとんどいませんでした。運動については、保護者・教職員ともに否定的回答が1割を超えています。運動ができない約1割の児童に対しての働きかけが十分ではないようです。体育学習や休み時間の外遊びなどで、児童が楽しみながら運動に触れる機会を積極的に設けたいと思います。

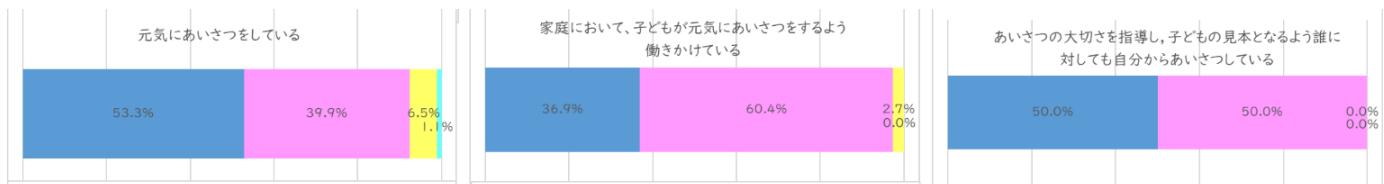
## 紫竹校の取組

### ○「目標をもち、あきらめずにチャレンジしている」



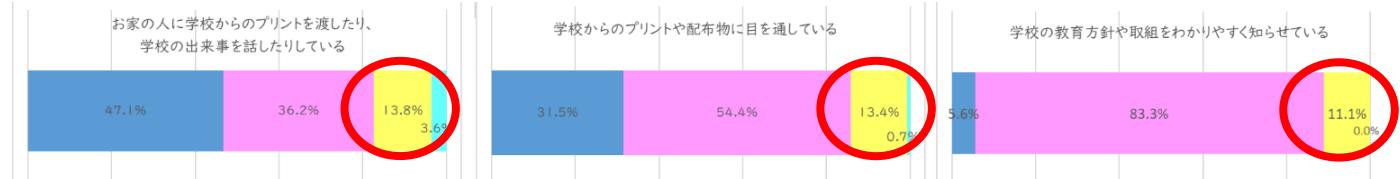
「よく出来ている」は約9%減少しているものの、約93%児童が肯定的回答をしており、前半の結果と変わりませんでした。目標を明確にし、どのように取り組むのかを児童自らが主体的に考えられるよう、担任は概ね指導ができたようです。校内研究で学級担任は全員公開授業を行い、授業改善やICT機器の活用に取り組みました。否定的回答がやや増えて16.7%となったのは、今年度の目標である「チャレンジヒップデータ」に1年間継続して取り組むことが難しかったためではないかと思います。今年度取り組んだことをもとに、児童の主体性を育むためにどのような取組が必要かを次年度も継続して考えていきます。今後も保護者と学校が連携しながら、子どもを支え、励ましていきたいと思います。

### ○「元気にあいさつしている」



児童・保護者・教職員のいずれも前半の結果とほぼ変わらず、肯定的回答が90%を超えるました。後半は児童会があいさつ運動に取り組み、5・6年の計画委員が声をかけたり、元気よく、また、気持ちの良いあいさつをしている児童を給食時に校内放送で紹介したりしました。あいさつの大切さ、あいさつを交わす喜びを実感し、進んであいさつをしようという気持ちを高めることができたと考えます。しかし、児童の7.7%はあいさつの習慣が身に付いていないようです。学期の初めにはPTA本部の方も校門で児童に声をかけてくださったり、地域の見守り隊の方々も声をかけてくださったりしています。社会とつながりながら、よりよく生きるために大切な態度を身に付けられるようにすることが必要だと考えます。

### ○「お家の人に学校からのプリントを渡したり、学校の出来事を話したりしている」



「すぐーる」の活用が進み、学校や学級からのお知らせは、配信をしています。否定的回答が教職員は減少していますが、児童・保護者では増加しています。今後もお便り・お知らせの配信、アンケートや個人懇談会ご都合のお尋ね等、「すぐーる」で配信していきます。担任からの配信やホームページ等をご家庭で話題とし、学校生活の様子を知ったり、子どもを励ましたりなどしていただけすると幸いです。

### <自由記述より>

学校教育活動について、ご意見・ご感想なども記述していただきました。その一部をご紹介し、学校の考え方をお答えします。保護者の皆様が学校評価に真剣にお取り組みいただいたことに感謝し、いただいた学校評価を真摯に受け止めなければいけないと感じております。学校評価アンケートを実施することで、子どもの回答から一人一人の意識や思いを知り、保護者の皆様が子どもの姿を通して感じておられることをお伝えいただき、学校としての方針や取組の成果・課題の整合性をとれるようにしたいと考えています。子どもたちの成長のために学校と保護者が連携してよりよい取組を進められますよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

紙面の都合上、すべてを掲載できないことをご了承ください。

## 【家庭学習について】

「夏休みの宿題がほぼ端末を使ってだったので、プリントなど書くものを希望します。」

「夏休みの宿題が端末になったため、きちんとやっているのか把握できない。」

「タブレットの宿題を金曜日にしていただけるとありがとうございます。」

GIGA 端末の活用が進んでおり、低学年でも家庭に持ち帰り、ドリルパークやロイロノート等使っての家庭学習に取り組みました。端末を使用しての家庭学習だけでなく、プリントや自主学習ノートに取り組む機会もつくり、端末と「書くもの」のバランスを考えるようにしたいと思います。また、端末を使用する家庭学習について、保護者も確認できる方法を知らせる等、次年度検討します。

## 【学校行事について】

「休日参観がなくなったのは残念です。」

「運動会や発表会など、もう少しレベルをあげたものを見たかったです。運動会は特に参観日でもいいのでは?と思いました。全校生徒が集まてもバラバラに競技しているだけで、点数もなく盛り上がりもなくて全保護者が一齊に集まる必要もないなと思いました。」

「久しぶりの全学年が揃った体育発表会や学習発表会でした。全学年で取り組んでいる雰囲気は良かったのですが、以前を知っている者としては物足りない部分も多々ありました。働き方改革、児童側の習い事の多さなど問題があるのは十分理解はしていますが、自分達で協力して楽しむなどの時間が減っているのは残念です。応援団や、発表会の幕間のクイズ大会など子ども達にとって思い出深い事がなくなっていく事がもったいないなと思っています。協力して楽しむ事、自主性を持って会を進めていく事などの力がなくなっていくのが寂しいです。」

「学校行事について、先生方の働き方改革の中、工夫した取組をしようとされていることが伝わりました。ただ、子どもにとっては、今はこの時に発達することができます。コロナ休校時に入学した娘は、友だち関係が広がる大切な時期に人の関わりが制限される状況でした。行動制限がなくなった今、人との関わりや多様な体験をたくさんできるような学校教育活動を希望します。」

「安全を優先しすぎて、運動会などがつまらなくなっています。赤白で競い合い、応援し、勝った負けたを楽しむ経験をさせてやりたかったです。」

「運動会だけでも昔のように戻して欲しいです。」

昨年度より、教職員の働き方改革を進める観点から、休日参観をなくしています。

体育発表会・学習発表会については、以前に実施していた「運動会」「学芸会」とは違い、教科等の学習において学んだことや考えたこと、身に付けたことを発表する機会としています。「運動会」「学芸会」は多くの授業時間を見て、休み時間・放課後にも係活動や準備に時間を割いたことで一定の成果が見られました。一方で、教員の働き方を見直し、教育の質を上げることを目的とする働き方改革の一つとして、昨年度より標準時数を大幅に超過している学校には文部科学省から見直しが求められています。そこで、今年度から京都市では授業時数や校時表の見直しを進めているところです。協力することや自主性を育てるについては、授業改善、たてわり活動、宿泊学習等でも取り組んでいきたいと考えています。

## 【学校施設について】

「学校設備を新しくする。教育現場にお金をかけるべき。」

「体育館の冷暖房設置を検討いただきたいです。」「遊具が少ないのが残念とよく聞くので、増やしてほしい。」

「遊具等がなくなってしまった分、運動場にバスケットゴールがあればいいな、と思います。」

「図書室が魅力ある場所として子供達に認識して欲しい。」

ご存じの通り、京都市の財政は大変厳しい状況です。子どもたちの安全面を最優先に考え、修繕が必要なところを優先して限られた予算内で執行していますので、学校設備の新設等は難しいのが現状です。

学校図書館では学校司書が貸出しだけではなく、読み聞かせやブックトーク、授業に関連した図書の整備等をしています。また、今年度はPTA主催の選書会を開催し、全児童が一人一冊選んだ本を購入していただきました。子どもが読書に親しむ機会をもてるよう取組を継続していきたいと思います。

## 【その他】

「購入が必要な物品について、封筒に記入してお金を入れて持っていく昔からのやり方を変えてほしい。」

→子どもたちが現金を学校に持てなくてよいようにしたいと考えています。各業者に相談・依頼をしているところです。

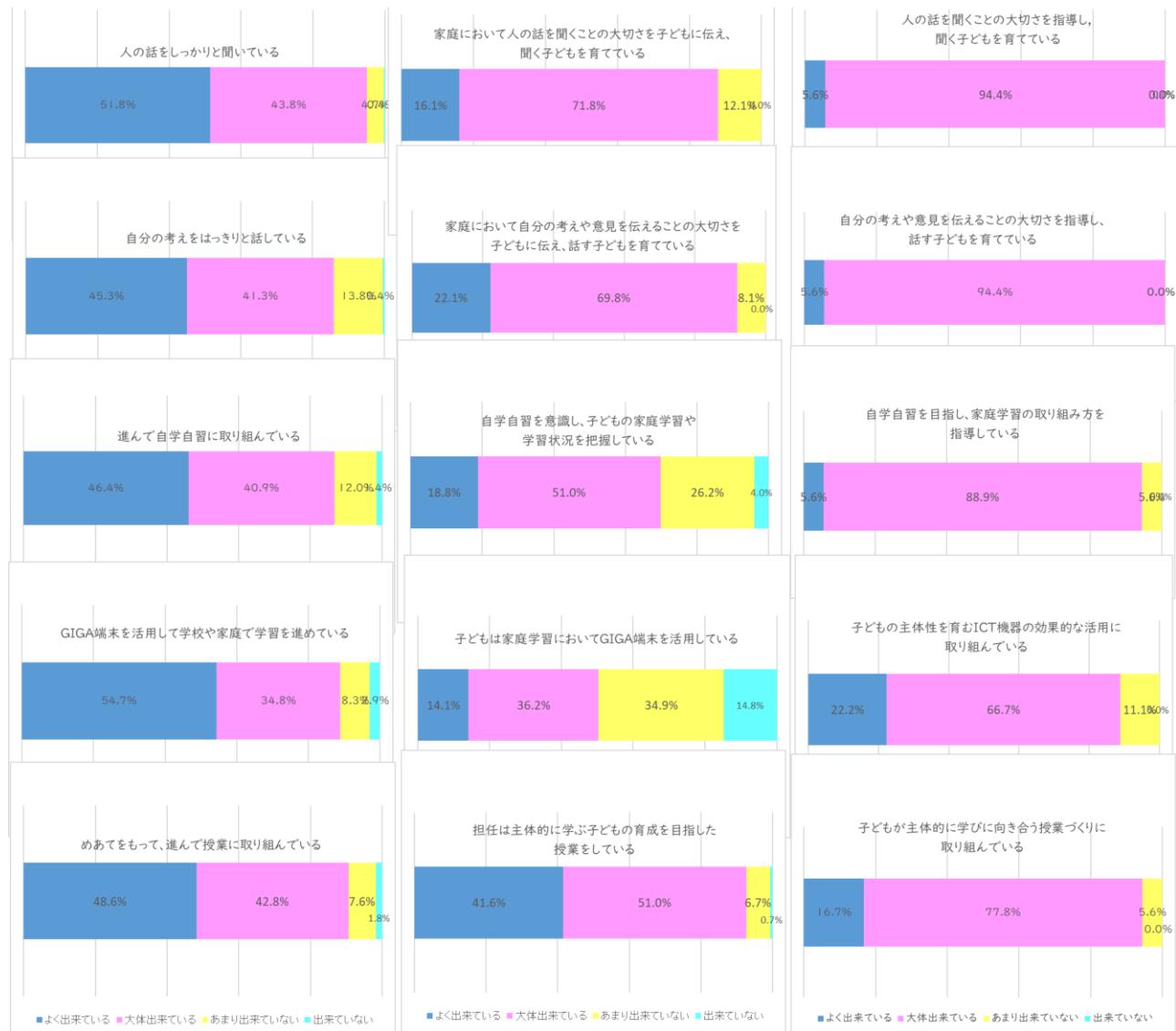
# 令和6年度 学校評価アンケート後期全項目結果グラフ <確かな学力>

紫竹小学校

児童

保護者

教職員



## <豊かな心>



## <健やかな体>



## <紫竹校の取組>

